



魚見っ子だより

ルールを守ることの大切さ！

校長 迫田 智志

ある調査によると、小学生が交通事故に出会うケースの多くが、飛び出しや信号無視、安全確認不足など、本人の交通ルール違反が原因だそうです。なかでも「飛び出し事故」は、低学年ほど多いというデータもあります。本校の子どもたちにも、再度この時期だからこそ声を大きくして注意を促す必要がありそうです。

幼い子どもは大人よりも視野が狭く、ひとつのものに注意が向くと周囲が目に入らなくなってしまいう傾向が強いのです。また、友達と一緒にだと注意力がさらに散漫になり、危険を予測し、察知することができなくなったり、安全確認を忘れてしまったりすることもあります。そこで、交通ルールを教え込むことも大切ですが、子どもの特徴を考慮して、次の点について共通理解・共通実践していきましょう。

○ 子どもの交通事故の特徴を知る

警察庁によれば、子どもが交通事故に遭いやすい状況は以下のとおりです。

- 1 道路横断中
- 2 午後3時～午後6時30分の夕方
- 3 自宅から500m以内
- 4 小学校1・2年生の事故が多い

下校時や放課後といった時間帯や自宅近くの道路で交通事故が多いというのは、安心感や開放感からくる気の緩みで注意不足になってしまうことが原因として考えられます。また、小学生の事故の約4割は「飛び出し」が原因で、小学校1年生の事故は、6年生の約3.2倍という結果も出ています。小学校低学年の子どもたちは、頭で考えるより先に体が動いてしまうということも珍しくありません。そこで、道路の歩き方を教えるときには、教える側の具体的な指導内容の工夫が必要です。

○ 「止まる」「見る」「待つ」を徹底する

子どもが交通事故に遭わないためには、**安全確認を徹底させる**しかありません。交差点や横断歩道を渡るときだけではなく、車道と区別された歩道や校区内の細い路地でも、安全確認は必要です。車や自転車が来ていないか、立ち止まって周囲を見回す習慣を身に付けさせていきましょう。

いよいよ3月に入ります。交通事故防止はもちろんですが、不審者への対応、サルや猪など野生動物への対応等、学校でも危機意識をもって取り組んでまいります。未然防止に向け、保護者そして地域の皆様のご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

